

News Letter

Center of Research for CMM
(Creative Music Making)

第2回 CMMニュースレター

7月のお暑い中、CMM研究会にご参加いただきまして誠にありがとうございました！！
大変遅くなりましたが、ニュースレターとして第2回CMM研究会の活動報告をいたします。

第2回CMM研究会 Center of Research for Creating Music Making
文教大学東京あだちキャンパス はなはたステージ
令和4年7月23日(土) 14時～17時30分 晴天

【ジャッキー先生からのごあいさつ】



アメリカからこんにちは

「日本のみなさんこんにちは！」音楽づくりにおいて、世界でも指導的立場にあるジャッキー・ウィギンズ(Jackie Wiggins)氏からCMM研究会参加者にさわやかなビデオメッセージが届いた。CMM研究会発足のお祝いと共に、これからの音楽教育を考えていく上で考えておくべき重要なポイント、子どもの音楽的・人間的成長を支援する教師の役割などについてお話くださった。

音楽活動は、音楽思考(Musical Thinking)を核に、子どもが主体的に音と向き合い、音楽や仲間とかかわる中で、楽しみながら音楽について深く理解し、成長していくプロセスこそが大切だということが伝えられた。そして、音楽を通して「生きる力」を育むためには、子どもと教師の「共有のエージェンシー」を発揮していくことが大切であることを改めて感じた。

22年以上にわたって小・中学校現場での豊かな経験をお持ちのジャッキー先生ならではの温かいお言葉に感謝したい。

【第2回 CMM研究会活動報告】

第2回CMM研究会は、ご案内を一般公開し、全プログラム(レクチャー&ワークショップ)を対面・オンラインのハイフレックスで開催した(アーカイブ動画配信付き)。コロナ禍という厳しい状況にもかかわらず、全国各地から、第一線でご活躍中の著名な実践者及び研究者、音楽之友社、教育芸術社の方など、計60名を超える参加者があった。

光栄なことに、研究会の様子は、『教育音楽』(音楽之友社)2022年10月号【巻頭カラー】まるごとWATCH!に掲載して下さったので、ぜひご覧いただきたい。

『水をつかった音楽づくり：子どもの音に対する感性を育む』

プレゼンター：高橋 詩穂 (京都教育大学附属桃山小学校)

前半では、小学校1年生、6年生、および中学1年生の「水」をつかった音楽づくりの実践事例を紹介して下さった。生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成において、音との出会いを大切に、生活経験を土台とした音楽表現を生み出していく音楽づくりのプロセスについて概観することができた。更に、生活や社会との関わりを意識した、幼小中の音楽科プログラム開発「教育研究改革・改善プロジェクト」についてもお話して下さった。

後半は、参加者が実際に、たらいに入れた水とコップやマドラーお玉などを使って、いろいろな水の音を体験するコーナーもあった。

普段、身近にありながらも気づけなかった水の音の面白さや可能性を実感し、「水」を題材とした音楽づくりの意義と可能性について考える良いきっかけとなった。



『子どもの音楽的思考の可視化—クロック・オーケストラ音楽づくり』

プレゼンター：近藤 真子（文教大学）

高橋 詩穂（京都教育大学附属桃山小学校）

平野 次郎（筑波大学附属小学校）

中島 千晴（熊本大学教育学部附属小学校）

このワークショップは、『教育音楽』（音楽之友社）特集企画「音楽づくりにおける教師の資質・能力は？～「クロック・オーケストラ」の実践を通して～」での出会いが発端となっている。（詳しくは、2020年12月号『教育音楽』（音楽之友社）をご覧ください。）

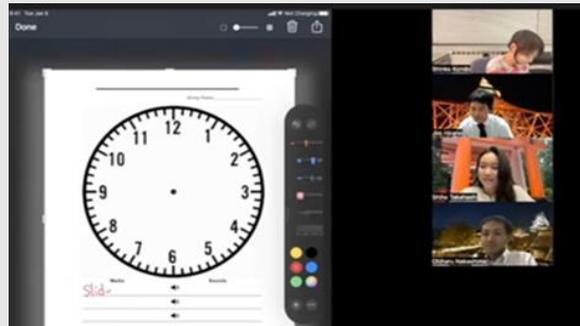
「クロック・オーケストラ」音楽づくりを、実際に3人の先生に実践して頂き、授業で大切にしていることや、教師にとって必要な資質・能力について考えた。

時計を使った1分間程度の音楽という、単一の教材にもかかわらず、それぞれの先生方の音楽づくりの授業は、「和楽器を使った時のお囃子」（高橋詩穂先生）「トガトンを使った60秒アンサンブル」（中島千晴先生）「トーンチャイムを使ったI、IV、Vミュージック」（平野次郎先生）といった全く違う授業となった。

それぞれの先生方が子どもの実態を考慮しながら、自ら「面白いな」と思える授業を教師がエージェンシーを発揮して授業をデザインされていた。子どもの反応や見取りも興味深かった。音楽づくりにおける教師の資質・能力を考える上で、多くの示唆を得ることができた。

この内容は、2022年ISME 世界音楽教育機構の世界大会（7月）で発表された。右はその時のオンラインワークショップの様子である。

“Making children’s voice visible in the “Clock Orchestra”- Fostering Learner Agency in Collaborative Composing”



『一分間音楽』

プレゼンター：石上 則子（元東京学芸大学准教授）

手作り楽器を使って音楽づくりに発展させた「1分間音楽」について紹介して下さった。（『教育音楽』 [別冊] 小学校音楽授業の達人' 96（音楽之友社）をご参照ください。）

「一分間音楽」は円形の図形楽譜を用いて、人が指揮者となって即興的に生まれてくる音の重なりを楽しむ音楽づくりである。

同じ時計楽譜を使った音楽づくりの活動でも、時計の秒針を指揮者とする「クロック・オーケストラ」とは、おのずと学習のねらいや、教師の支援の仕方が変わってくる。そこで、音楽づくりのプロセスでの子どもの学びを実感として体験するために、参加者がグループに分かれ、音楽づくりをし、それぞれの良さや、類似点、相違点等を話し合った。

今後、子ども一人一人の個性を活かせる音楽づくりの授業をデザインする時、目の前の子どもを見ながら、実態に即した、子ども達にとって意味のある楽しい活動を、教師自身が柔軟な発想で作りだしていくことが大切であることを実感できた楽しいワークショップだった。



『縄文土器紋様を手がかりとした音楽づくり』

プレゼンター 中村 耕作 (国立歴史民俗博物館)

今回は、特別に、国立歴史民族博物館の中村耕作氏から、縄文時代・縄文土器に関する考古学の成果と、音楽教育における「音楽づくり（創作）」の方法をコラボレーションさせた新しい視点からの発表もあった。今後の展開が非常に楽しみである。



今回は、「子どもの創造性と感性を磨く音楽づくり」というテーマを切り口に、実にさまざまな音楽づくりの実践が紹介された。音楽づくりのさらなる可能性、子どもの視点にたった音楽づくりのあり方について、実践現場の先生方、研究者のみなさんと一緒に考えることができた。

お忙しい中、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

また、次回、先生方とそれぞれの視点からのご発表や意見をいただき、これからの音楽づくりについて一緒に考えていくことができることを心から願っております。

(文責：近藤真子)

＜第3回CMM研究会のご案内＞

第3回 CMM研究会のテーマは『未知との遭遇が体験できるー世界の音楽と友達になるためにー』です。また皆様とお会いし、熱く語りあえたら嬉しいです。ご参加いただけますよう、よろしく願いいたします。

◆お申込み：<https://forms.gle/HwL37Eny4HFwJoEz5>

◆お問い合わせ

問合せ・受付担当： 岡部 昌代

メール：cofr.cmm.2021@gmail.com